

**第 77 回 薬事エキスパート研修会**  
**Risk Communication のあり方**  
**—情報提供から関係者間の相互の意見交換へ—**

主 催 財団法人日本公定書協会  
 後 援 日本製薬団体連合会  
 日本製薬工業協会  
 社団法人東京医薬品工業協会  
 大阪医薬品協会  
 日本 OTC 医薬品協会  
 日本ジェネリック製薬協会

米国研究製薬工業協会(PhRMA)  
 欧州製薬団体連合会(EFPIA Japan)  
 日本 CRO 協会  
 社団法人日本医薬品卸業連合会  
 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団

リスクコミュニケーションは、一般にはリスクに対する情報を専門家内にとどめず、一般公衆を含む利害関係者間において共有し、消費者が健康や安全性等のリスクについて独立した判断ができる必要な情報を提供するために意図されたコミュニケーションとされています。リスクコミュニケーションの発展には、データ開示、情報提供、関係者間の相互の意見交換が必要とされています。また、米国では 2007 年に FDA から公衆へ向けた「医薬品のリスクコミュニケーションに関するガイダンス」が発表されています。

我が国では、薬事法第 77 条の 3 (情報の提供等) の第 1 項並びに GVP の第 5 条 (製造販売後安全管理業務手順書等) 及び第 9 条 (安全確保措置の実施) の規定があることから、医薬品・医療機器の製造販売業者等から医薬関係者への適正使用情報の提供・伝達は、先進諸国の中で最も充実していると言われていています。しかしながら、医薬関係者間のコミュニケーション、医薬関係者と患者とのコミュニケーション、更には製造販売業者と患者とのコミュニケーションについては発展段階であると考えられ、まずは現状認識から始まり、建設的な意見交換を通して相互理解、共通の認識を得ていくことがわが国における「医薬品のリスクコミュニケーション」の確立への第一歩と考えられます。

そこで、今回は「医薬品のリスクコミュニケーション」についての概要から始まり、季節性インフルエンザ、新型インフルエンザのシーズンを受けて、医療現場で互いにどのようなコミュニケーションが行われているかの情報交換を行い、今後の我が国における「医薬品のリスクコミュニケーションについて」の方向性についてご討論頂きます。

つきましては、本研修会の趣旨にご賛同頂き、多数の皆様にご参加頂きますようお願い申し上げます。

## 【日時及び場所】

日 時	場 所
平成 22 年 4 月 14 日(水) 13:00~17:00	<b>日本薬学会 長井記念ホール</b> 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 Tel. 03-3406-3326 地図は協会ホームページをご覧ください

## 【申込要領】

## 1. 申込方法及び期日

(1) 下記の**払込取扱票**にてお申し込み下さい。

**法人会員**：当協会から送付する規定の払込取扱票使用

**法人会員以外**：

ゆうちょ銀行、郵便局備えつけの払込取扱票使用

**振込先**：(財)日本公定書協会

**振替口座 00190-9-97409**

\* 次の事項を**払込取扱票の通信欄**にご記入の上、受講料をご送金下さい。平成 22 年 3 月 15 日(月)より聴講券をお送り致します。郵便振替払込金受領証をもって領収証に代えさせていただきます。

**通信欄**に必ずご記入下さい。

- (1) **会社名、所属**
- (2) **聴講者名**：1 枚につき 1 氏名
- (3) **連絡先**：郵便番号、住所、電話番号
- (4) 「77-Risk」の文字
- (5) e-mail (研修会の案内をご希望の方のみ)

\* **ゆうちょ銀行及び郵便局以外の銀行振込、現金送金はご遠慮願います。** なお、受講料受領後の払い戻しは致しませんので、予めご了承下さい。

## (2) 入金確認順に受け付けます。

平成 22 年 3 月 31 日(水)以降のお振り込みの場合は下記問合先にご連絡下さい。又は、協会ホームページ(<http://www.sjp.jp>)をご覧ください。

## 2. 受講料(消費税込)：要旨集代を含みます。

・ **日本公定書協会法人会員** 1 名につき 10,000 円

**(法人会員は 1 口につき 4 名が会員扱い)**

・ **個人会員/非会員** 1 名につき 15,000 円

・ **行政/アカデミア/医療機関/学生** 1 名につき 3,000 円

なお、受講者の方は、わが国の医薬品リスクマネジメントに関連する薬事法や制度等の成り立ちの概要を理解しやすく解説した初めての日英対訳本「日本における医薬品のリスクマネジメント」を特別価格 8,000 円でご購入頂けます。ご希望の方は受講料に加算して振込用紙にてお振込下さい。

## 3. 問合先

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15

財団法人 日本公定書協会(電話 03-3400-5644 研修担当)

## 4. 注意事項

○法人会員にお送りした規定の払込取扱票は、会員証となりますので、必ず関係部門へお廻し下さい。

○当日、撮影及び録音はご遠慮願います。

○原則として電話、FAX での受付及び当日受付は致しませんのでご了承下さい。

第77回 薬事エキスパート研修会  
Risk Communication のあり方  
—情報提供から関係者間の相互の意見交換へ—

平成22年4月14日（水） 日本薬学会 長井記念ホール  
（受付開始予定 12:00）

13:00～13:05 開会挨拶

寺尾 允男  
（日本公定書協会会長）

13:05～13:45 医薬品の Risk communication について

中山 健夫  
（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻  
健康情報学分野教授）

13:45～14:25 今シーズン病院薬剤部でおこなったインフルエンザ治療薬に関する Risk communication

林 昌洋  
（虎の門病院薬剤部長）

---

14:25～14:40 休 憩

---

14:40～15:20 主治医から患者さんへの説明など

三田村 敬子  
（財団法人ライフ・エクステンション研究所附属  
永寿総合病院小児科部長）

15:20～16:00 企業からの Risk communication

今シーズン、インフルエンザシーズンにおいて企業が行ったリスクコミュニケーション

岩崎 甫  
（グラクソ・スミスクライン株式会社常務取締役  
開発本部長）

16:00～17:00 総合討論

共同司会：浅田 和広（鳥居薬品(株)安全情報管理部副部長）  
小山 弘子（日本公定書協会研修企画コーディネーター）

（演題、講師、時間等一部変更する場合がありますので、予めご了承下さい。）

財団法人日本公定書協会

<http://www.sjp.jp>